



東方の学者たちの旅

学者たちはその星を見て喜びにあふれた。
(マタイによる福音書 2 章 10 節)

今年のクリスマスはいつもの年とは少し違ったものになりそうです。ほかならぬ聖地が戦乱の中にあるからです。ヨルダンの教会は、今年はガザの人々の苦しみを考えて、プレゼントやパーティーのような楽しいことはしないで祈りに集中すると。広島長束教会はそこまでする必要はないと考えましたが、世界にはイエス様のご降誕を祝うこともできない所があるということは忘れないでいて下さい。

イエス・キリストがお生まれになった時、はるばる東の国から来たのが占星術の学者たちです。皆さんの中で星占いが好きな方はおられますか。昔の中国で占い師に教えを乞うた人がいました。「私はこの身を危うくしても正しいことを貫き通すのが良いのでしょうか、それとも悪いことをしても、世の中でうまく立ち回って生きていくのが良いのでしょうか」。すると占い師は「そのようなご質問は占いでお答え出来ることではありません」と。占いで人間の生き方を教えることは出来ません。占星術の学者たちとは、当時の世界で、本当の神様を知らずに得体の知れない神々を拝んでいた大多数の人々の代表なのです。

学者たちは毎晩星をながめて、世界に起こることや人間の運命を研究していましたが、ある時、新しい星が出現したのを見て驚きました。それは占いによれば、ユダヤに偉大な、新しい王が生まれたことを示すものでした。

学者たちはこの新しい王が、歴史に名を残す偉大な王、世界の王になると考えたのです。だったらいち早く挨拶をしておこうと、ずいぶん気の早い話ですが。

どこまでも続く荒野を旅してきた学者たちは、ユダヤの国に着くとまっすぐ都エルサレムに入りました。王子の誕生で、エルサレムはわきたっているだろうと思っていたのです。しかし予想に反して都は静まりかえっていました。学者たちが「ユダヤ人の王としてお生

2023年12月発行

まれになった方は、どこにおられますか。わたしたちは東方でその方の星を見たので、拝みに来たのです」と言って回った時、人々は不安を抱きました。ユダヤ人にはすでに 700 年の昔、神様から救い主＝メシアが与えられるという預言が与えられており、誰もがそのことを知っていました。待ちに待ったその瞬間が来た時、しかし人々はおじけづいてしまったのです。似たようなことが皆さんの上にもありませんか。待ちに待った最高のチャンスが来ているというのに、あと一步を踏みだすことが出来ない、こうして絶好の機会を台無しにしてしまうということが。

その時、エルサレムの人々は悪名高いヘロデ王の支配下で苦しんでいました。もしも新しい王様をお祝いしたらヘロデ王に目をつけられてしまう、それくらいなら今の不自由な生活を我慢した方がいい、とにかく新しいことは怖い、ということだったのです。

しかし占星術の学者たちに怖いものはありませんでした。彼らは新しい王がベツレヘムで生まれたと教えられると、すぐに出発しました。すると東の国で見た星が再び現れました。学者たちは星に導かれてベツレヘムに着き、宮殿でも何でもない普通の家で、ついにイエス様に会うことが出来たのです。そしてこの時、この幼子が軍隊を率いて世界を征服するような血なまぐさい王様ではなく、貧しい、虐げられた人々の友であり、愛と正義をもって世界を治める王様であることを知り、喜びにふるえました。「この方こそまことの神、世界の救い主であります」と。こうしてイエス様を拝み、贈り物をささげました。この時、学者たちはもう昔の占星術師ではありませんでした。占いではなく、イエス様が現わして下さったまことの神を信じる人になって、自分の国に帰っていったのです。

今から 2000 年の昔に生まれたイエス・キリストは、東の国の占星術の学者たちが長い旅を続けてついに探し当てたように、私たちが一生をかけても探し求めるべきお方なのです。

(2023年12月24日の礼拝説教より)

牧師 井上 豊